

# 令和元年度 都城市立南小学校 学校評価報告書

※ 評価基準・・・4：よくできている（8割以上） 3：大体できている（5～8割未満） 2：あまりできていない（2～5割未満） 1：できていない（2割未満）

項目	評価内容	評価指標	評価結果			学校の自己評価結果コメント	学校運営協議会評価コメント	自己評価	評定	
			グラフ	保護者	児童					教師
学力・授業力の向上	基礎学力を向上させる指導方法の工夫	①教師のチェックポイントを意識した授業により児童の学力は向上した。		3.5	3.6	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師・児童・保護者ともに多くが「分かりやすい授業が行われている。」と回答している。授業アンケートでも教師が「授業改善のチェックポイント」を視点として、分かりやすい授業を心がけるようになっている。ただ全国学力、みやざき学力調査を見ると、5年生以外は正答率が県平均を下回る結果である。各学年の課題を改善する方を次年度に引継ぎ学力向上を目指したい。</li> <li>○ 児童アンケートでは、自分の考えや意見の発表が上学年で減少している。児童主体の授業実践を継続し、表現力を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下位の子どもの一人ずつの力を付けることが大切だと思う。</li> <li>・ 各学年のレベルを把握し、強い教科・弱い教科を調査して次年度に繋げて欲しい。</li> <li>・ 学力向上には、読解力が必要なので、読書の習慣化の指導をお願いしたい。</li> <li>・ 授業で分からない所を質問しやすい環境をよりよくすれば、学力の向上や自発的に意見、発表など、表現力が高まるのではないかと思います。</li> <li>・ 学力は平均でなく知能との関係が大事、オーバーアチーバーの子を育てるのが大事。学習態度が素晴らしいですね。授業中の児童の反応を正しく把握するための教育工学的手法の導入もいいのではないのでしょうか。</li> <li>・ 各学年の授業を参観して、子どもの学習に対する興味・関心を高めるため、教師達が授業の内容を工夫し、教材・教具を開発し、さらにタブレットの取組も検討したことが分かった。</li> </ul>	3	3.1
	主体的・対話的で深い学びの授業実践	③児童の言語活動を意識した授業を実践している。		2.9	2.9	3				
豊かな心の育成	「思いやり」の心の育成と規範意識の醸成	⑧道徳の時間を中心に、命の大切さや社会のルールを守ることに指導している。		3.5	3.7	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 南小の児童には、「人を思いやる優しい心」が育てられていると言える。道徳科の実践を進める中で、命の大切さやきまりを守る意味について考える授業ができ、規範意識の向上が見られた。また、いじめ・不登校の早期発見に努め、「ホットハート委員会」を始め、組織的な対応を行ったことで、重大ないじめ事案は生じなかった。</li> <li>○ 読書意欲は高まっているが、家読の習慣がまだ十分に身に付いておらず、今後読書をする機会や環境の充実を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期発見、早期対応がいじめなどの事案に必要なと思う。</li> <li>・ いじめについて事例で指導も必要と思います。例～この様な言動・行動はいじめですとの内容説明(特に低学年に)</li> <li>・ 保護者の評価では、あいさつと手伝いが低くなっており、学校と家庭でのギャップを小さくしていけたら良いと思う。</li> <li>・ あいさつもよくして、やさしい子どもが多いと思います。学校での出来事を学校だけでなく、家族とも話し合いながら、人との接し方、思いやりの持ち方などを学んでいけたらと思います。</li> <li>・ 授業の様子を見て、南小の子どもたちが積極的に取り組んでいることが分かった。また、授業後、廊下を歩く姿や清掃時間の態度もしっかりしている。</li> <li>・ 思いやりの心が育っていいですね。道徳の時間だけでなく平日頃、思いやり、やさしい心の大切さを話してやる事が大切ですね。</li> <li>・ 家庭での読書習慣化のために毎日10分間ぐらいの読書を宿題として出すことは無理でしょうか。</li> </ul>	3	3.1
	図書館環境と読書活動の充実	⑤児童に読書意欲を喚起する指導ができています。		2.6	3.0	2.8				
健康及び体力向上	健康的な生活態度の意識向上	⑭児童に健康で安全な生活が送れるように指導している。		3.2	3.7	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師・児童・保護者ともによい評価となっている。授業中「立腰」の姿勢を意識させることで、学習態度にもよい影響が出ている。また、保健便りなどの啓発活動により、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活リズムの確立ができてきたと考えられる。なお、本年度6年生の永久歯、むし歯有病者率は0%であった。</li> <li>○ 教師・児童・保護者ともにやや低い評価である。体力テストの結果を見ると、A段階の児童が減少、D・Eの児童が増加している。今後とも体育の授業やトレーニングの強化を図りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康な心と身体を自分達自身でどのように作り出していくかということも大切ではないだろうか。</li> <li>・ 体を十分に働かせることが体力の向上につながっていくと考える。</li> <li>・ 生活リズムの継続指導を続けて欲しい。(特にゲーム時間を守る！)</li> <li>・ 全国的に体力向上は必須課題ですので、強化して下さい。</li> <li>・ 体力向上も大事であるが、苦手と感じている生徒の引き上げも必要と思う。</li> <li>・ 健康に生活していく上で、立腰、生活リズムなど、最低限の生活習慣が身に付いている事はとても素晴らしいと思います。</li> <li>・ スポーツをやっている子とそうでない子の差が大きい気がします。誰でも体を動かせる環境が増えるといいと思います。</li> <li>・ 研究授業でクラスの子どもの元気な声、健康な姿が印象的でした。より良い生活リズムは学校生活の基盤であり、南小の子どもがよくできていて良かったです。</li> <li>・ 健康生活は、家庭と本人の意識と実践が大事です。啓発効果が表れるといいですね。</li> <li>・ 体力の向上、体育の時間に10分ぐらい向上を目指した運動を取り入れることは、どうでしょうか。</li> </ul>	3	3.1
	体力向上	⑬体力向上プランに基づく取組により児童の体力は向上している。		2.7	3.1	2.8				
開かれた学校づくり	学校支援ボランティアを活用した教育活動の推進	⑩学校は、保護者や地域の方々を教育活動に活用している。		3.2	2.8	2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本年度は、姫城地区3校の地域人材の共有化として、明道小シンボランティア3名に5・6年生の家庭科に入っていた。また、登校日にはボランティアとの対面式を初めて行った。三校合同学校運営協議会では、姫城地区のよさと課題について話し合い、姫城地区で目指す児童・生徒像を設定した。</li> <li>○ 毎月1回、学校Web更新日を設定し、各学年の行事や教育活動についてホームページによる広報を行った。学校便りは毎月発行し、保護者、近隣学校、各地区自治公民館へ配付した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姫城地区3校で話し合いの場が持てたのは、共通認識を持つためにも良かったと思う。</li> <li>・ できればボランティア活動も積極的にを行い、地域社会とのつながりを大事に思える子どもに育てて欲しいと思います。</li> <li>・ 先生方も忙しい中大変だと思うが、公民館などと連携して地域の行事に関わっていただけると良いと思う。</li> <li>・ ボランティアなどを通じて、子どもたちが地区の方々やふれあう機会が増えれば、教育はもちろん地区の活性化にもつながると思います。</li> <li>・ 保護者や地域住民が積極的に学校に関わってくれ、学校側も施設開放・情報発信を重視したことが分かった。</li> <li>・ 学校からの情報がよく発信されていていいですね。子どもの様子を伝える事が何より大切です。学校と家庭が課題を共有することができます。</li> <li>・ 必要としているボランティア、必要時に保護者・地域へ発信して欲しいです。対応できる人がいると思います。</li> </ul>	3	3.1
	保護者や地域の期待に応える教育活動の推進	⑮学校は、学校や子どもの様子が分かるように情報を提供している。		3.2	3.6	3.4				

**1 本年度の取組について**  
 ○ 全国、みやざき学力調査の結果を分析し、課題に応じて学習指導の充実に向け努力した結果、1月に実施したCRT検査では、国語・算数ともにどの学年もほぼ全国平均か県平均を上回る成果をあげることができた。読書については、図書館サポーターや読み聞かせボランティアとの連携を密にしながら読書指導の充実を図ったが、まだ家庭での啓発など課題が残る。姫城地区で「めざす児童像・生徒像」を運営協議会を中心に話し合い、設定したことで、地域ぐるみで子どもを育てる基盤ができてきた。また、姫城地区3校の地域人材の共有化を図ったことで、ミシン指導など学習支援ボランティアを活用した学習や活動も積極的に推進できた。

**2 次年度への改善に向けて**  
 ○ 次年度も、「学力向上」や「豊かな心の育成」のみならず、「体力向上」についても学校としての役割を果たしていくとともに、家庭や地域との関係機関と連携しながら課題の解決に努めていきたい。読書指導については、家読を奨励するとともに、単に本を読むより読書活動を通して思考力を磨くなど、子供たちの意識の高揚につなげる工夫をしたい。また、地域に住む人々の専門性を活用し、保護者・地域住民と教師がチームを組み、学習指導できるような仕組みを整えていきたい。

**その他（学校評価のコメントに関して）**  
 ○ 各教科や特活・総合的な学習の時間などのつながりを意識した主体的・対話的で深い学びを追求するとともに、担任や少人数指導との連携を図りながら、基礎的・基本的な学力も確実に身に付けさせていきたいと思います。  
 ○ 児童間のトラブルやいじめなどの問題の早期発見・対応に努め、今後とも学級担任と学年主任、生徒指導主事、さらに管理職や外部機関（スクールカウンセラーなど）との連携を密にして組織的に対応していきます。  
 ○ 子どもと向き合う時間の確保や教育の質の向上を目指して、勤務時間の把握、行事・会議・作業等の見直しや精選・簡素化、あるいはチームによる業務分担など、教職員の「働き方改革」に本格的に取り組めます。  
 ○ P T Aに関する御意見も多数いただきました。これらの課題は、P T A役員と協議しながらP T A総会並びにP T A運営委員会等で御回答していきたいと考えております。